

支援センター名	那覇市子ども体験活動・ボランティア活動支援センター
所在地	〒900-0022 沖縄県那覇市樋川2-8-8 那覇市教育委員会
連絡先	Tel 098-853-5757 Fax 098-833-2202 ホームページ <a href="http://www.lllnet.naha.okinawa.jp/kodomotaiken/">http://www.lllnet.naha.okinawa.jp/kodomotaiken/</a>

## 事業の概要とポイント

- ① 地域で活動できるボランティアを目指し、市内の中・高校生を対象に「まめ記者さん」を組織した。支援センターの広報係として広報紙の作成を行うほか、ボランティア参加も行った。地域へ目を向け、参加していくことで、地域での活動の可能性を広げる事ができた。
- ② 情報収集・提供事業として、ホームページの立ち上げ等を行った。
- ③ 広報事業では、まめ記者さん作成の広報紙の発行、ポスター・チラシ等の配布を行った。

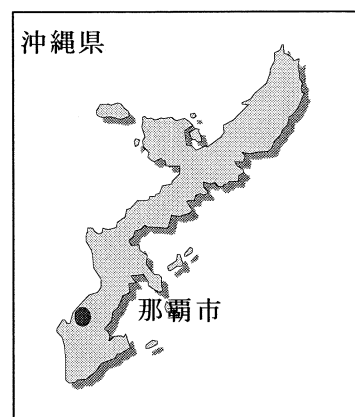
## 関係した学校・団体の名称

沖縄タイムス社、首里中学校、首里東高等学校、石嶺公民館、首里公民館小緑保育所、識名児童館、久茂地児童館、首里図書館、那覇市社会福祉協議会

## 地域の現況・特色

活動対象地域の那覇市の人口は311,000人である。

本市は、沖縄県の県都として人口30万人余を有する政治・経済・文化の中心地である。平成15年には沖縄都市モノレールを核とした街づくりや中心市街地の再開発及び新都心の建設事業、教育福祉事業など、創造・共生そして交流のまち・那覇の実現を目指している。



## 企画から活動までの経緯

- ①4月 社会教育指導員会議において、ボランティアのニーズやボランティアの活用について話し合い、協力を依頼した。ボランティア登録の調整を行った。
- 5月 「まめ記者さん」を企画し、活動計画を立てた。募集チラシを作成。
- 6月 市内各中学・高等学校、公民館、図書館へチラシを配布し、まめ記者さんの募集を行った。中学校の福祉委員の先生の声かけで団体の申込、またチラシを見た高校

生4人グループからの応募があり、計18名のスタートとなった。

- 7月 プロの記者、カメラマンを招いての第1回研修会を行った。終了後、各自で情報収集をし、取材希望先を決めてもらった。コーディネーターは取材希望先へ取材依頼を出し、了承を得た場所での取材活動を実施。
- 8月 企画会議。広報紙の名前、記事の内容、取材先、取材日等についての話し合い。夏休みを利用しての取材活動。
- 9月 メイン記事の取材。打合せ。「那覇青年祭」でのボランティア依頼があり、前日・当日にボランティアとして参加。
- 10月 各自が持ち寄った記事の編集会議。パソコンでの作成では、それぞれの得意な分野で力を発揮した（パソコン入力、タイトル作成ロゴマークの作成など）。
- 11月 第2号発行に向けての会議。「子ども劇場」でのボランティア依頼があり、受付・案内のボランティアスタッフとして参加。
- 12月 個別打合せ。取材の進行状況・今後の打合せを行い、後半で全体編集会議を行った。
- 1月 修了式。
- ②4月 子ども体験活動調査を市内各公民館、図書館、児童館、その他関係機関を対象に実施した。
- 5月～ 調査結果を月毎、体験活動毎に分類し、子どもを対象とする事業、イベント等の情報を掲載。その都度の更新を行う。
- ③10月 「なはKid's新聞創刊号」の発行。支援センターポスター、チラシ、リーフレットの作成。
- 11月 支援センターポスター、チラシ、リーフレットの配布。配布先は、市内各小・中・高等学校、公民館、図書館、児童館、自治会、子ども会、その他関係機関（ポスター：650部、チラシ：1,000部、リーフレット：30,000枚）。
- 3月 「なはKid's新聞」第2号、第3号発行。

## 事例の展開内容

- ① 「まめ記者さん」の主体的な活動を目指した。企画会議→情報収集→取材→記事おこし→編集→校正という一連の作業は、コーディネーターや公民館広報紙作成に携わっている方をサポート役として、「まめ記者さん」自らで進めた。完成した広報紙は「なはKid's新聞」として各小・中・高校、公民館、図書館、児童館等へ配布、設置した。また、ホームページへの入力作業も手伝ってもらった。取材先がなかなか決められない子においては、コーディネーターがテーマを表示し、取材を行なった。打合せ、話し合いは主に教育委員会の会議室を使用した。集合が難しい場合には、コーディネーターが学校の協力を経て、部屋を借り会議をもった。
- ② ホームページは週末更新を目安に、情報が入り次第更新した。
- ③ パソコンを持っていない方への広報方法として、マスコミや市の広報を活用して、ポスター・チラシの掲示、配布を行った。

## 企画・活動する上でのポイント、留意点など

- ① 中・高校生に対するボランティア活動のきっかけとして、広報活動を手段とした「まめ記者さん」を企画、実施。地域活動への自主的な展開を模索、支援。
- ② 情報センターとしての機能を発揮するために、市内の体験活動情報の収集を広範囲にわたって行った（教育機関、福祉施設、地域の活動情報など）。
- ③ 従来市内全域への機関を通じたチラシ配布等以外に、情報機器を活用したホームページでの広報活動。最新情報をリアルタイムで広報。

## 評 価

地域や各種機関における体験活動情報を収集し、ホームページによって活動の情報を提供することができた。また、ボランティアの養成と育成活動の中で、中学・高校生を対象にした「まめ記者さん」事業を実施、地域で行われる事業や地域の情報を収集し、独自の広報紙を発行することができたことはかなりの成果があった。今後は、地域で子どもを育てる環境の一層の充実を図り、人間性豊かな青少年の育成に向けて、地域に根ざした活動の展開やねばり強い組織体制づくりを推進していきたい。